

校内研究だより#1

国語部会

第4学年 国語科 「筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう」

《授業について》

6月29日月曜日、今年度初となる校内研究授業を行いました。今回の校内研究は、第4学年の国語科として、「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。」ことをねらいとして授業を行いました。今回は、その様子をお伝えいたします。

①【導入】

全文を音読した後で、問いの文などに着目しながら、「はじめ」「中」「終わり」に分ける活動に取り組みました。それぞれの考えをグループで検討することで、段落相互の関係（第1・第2段落は、第3段落の事例であること）などを捉えることができました。



③【まとめ】

本時の振り返りでは、スプレッドシートに入力し、提示した内容を互いに見合うことで、考えを共有することができ、「アップ」と「ルーズ」の違いをより深く理解することができました。



②【展開】

「アップ」と「ルーズ」の対比構造を捉え、ワークシートにまとめました。ここでは、難易度の違う3種類の思考ツールを提示し、児童が自分で選んだツールでまとめられるようにしました。「この前の『思いやりのデザイン』と同じまとめ方にしよう。」など、既習事項を活用する姿も見られました。



指導・講評

- ◎ 教師の発問が端的で、児童が何をすべきか明確に把握できていたこと、根拠をもって意見を述べ、相手を納得させようとする児童の姿勢が、活発な話合いにつながっていた。
- ◎ 単元の最終的な目的として、「ソーラン節の振り返りカード作成」があることで、学びに必然性が生まれてとても良い。
- △ 前半の段落分けに30分、後半の比較活動に12分と時間が偏っていた。段落分けの活動を短縮し、比較やまとめの活動に重点を置くことで、より深い読み取りにつながる。児童の実態によっては、音読をすることよりも、その分早く課題に取り組ませるという方法もある。
- △ クイズ感覚ではなく、根拠に基づいて段落分けをする必要がある。そのためには、教師が「どこに注目するか」をしっかりと提示することが有効。
- ・ 全文シートは、ページを行き来せずに比較検討することができるため、児童にとって分かりやすく、理解が深まるため活用していくとよい。
- ・ 中学年では、事例の数や役割について確実に指導をしていく。